

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園
期間	令和6年 12月～2月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

4歳児：運動遊び

<テーマの設定理由>

・日々の活動の中で体を動かす遊びを好み、サーキット遊びやドッチボールをしたいという声が多く聞かれるようになった。子どもたち同士でどんな活動が出来るのか知りたいと思いこのテーマにした。

2. 活動スケジュール

- ・テーマを決めてマットの周りを動き、体の使い方を知る。
- ・活動の様子をクラスで視聴し、感想を出し合う。
- ・クラスでサーキット遊びのコースと内容を話し合い決める。
- ・実際に考えたコースを遊戯室に作り活動する。
- ・やってみた感想をクラスで話し合う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・マット、跳び箱、フープ、鉄棒、巧技台、クッション台、トランポリン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・身体の使い方を知り発想の幅を広げるために、色々な動きでマットの周りを動く。それぞれが友だちの動きを真似する様子が見られた為、活動の様子をクラスで視聴し客観的に意見を出し合えるようにする。
- ・色々な意見が出る中で自分たちでサーキットのコースを考えたいという意見を取り入れ、実践する。
- ・考えの幅を広げられるように運動器具を用意し環境を整える。
- ・充実した環境の中で楽しめるようにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○遊戯室にて好きな動きでマットの周りを走る。
近くの友だちの動きを見ながら真似をして動く姿が多く見られた。



○撮影した映像をクラスで子どもたちと一緒に
見る事が出来るよう環境を整える。

※客観的に自分たちの動きを見る
事で、こんな動きがある等沢山の
意見が出るようになった。



○子どもたちが話し合う中でサーキット遊び
を自分たちで作りたいという意見が多く出た
為、再度話し合いをし、サーキットづくりを
行った。



※普段発言の少ない子も積極的に意見を出す
姿が見られた。
※友だちがクリアできるように相談しながら
障害物の難易度を設定していた。



○皆で考えたコースを実際に作り、全員で楽しむ。

※苦手意識を持っていた子も積極的に参加して
いた。
※トランポリン等跳ぶ回数も自分たちで決めた
ので他の子がやっている様子をよく見ていた。



5. クラスで話し合い、良かったこと、次につなげたいこと、課題

- ・トランポリンやフープ等のように跳ぶ回数なども自分たちで決めた事で、他の友だちがやっている様子をよく見るようになった。
- ・途中で止まる子が少なく、全員で楽しみながら参加していた。
- ・運動に苦手意識を持っていた子も積極的に参加する様子が見られた。
- ・感想を聞くと、過去に出していない障害物や動き等も発言する子がいて驚いた。
- ・クラス全体で話し合いを進めると、子どもたちの発言の回数に差が出ていた。
- ・様々な動きを経験して置く事で初めて取り組むことに対しても体の使い方を生かせるようになっていた。
- ・子どもたち自身で興味を持って取り組む事で、やりたい気持ち、最後までやり遂げる気持ちを引き出す事が出来た。
- ・周りに意識が向く事で友だちを助けたり、声を掛け合う気持ちが育った。

6. 次の活動

<活動内容、新たに準備した素材・設定等>

- ・活動内容：運動遊び
- ・準備した素材：滑り台、トランポリン、巧技台、マット、フープ
- ・設定環境：グループ毎に準備から行えるよう広いスペースを設ける

<活動中の子供の姿等>

- ・研修発表の際に職員から頂いた助言をもとに再度話し合いを行う。

○アドバイス内容：準備から自分たちで出来るとより主体的に出来るのではないかな。

○紙に基本の進む道を考えてから、どんな障害物を置きたいか話し合う。

※少人数で行う事でグループの全員が自分の意見を出しながら話し合いを進めていた。

※話し合いを進めていく中で意見のまとめ役となる子が自然と出来ていた。



○グループで考えた用紙を見ながら障害物を自分たちで置いてサーキットづくりを行う。

※コースを作る際に周りの友だちを気遣い声を掛ける姿が見られた。

※準備をする中で自然と役割が決まり、それぞれが主体的に活動していた。



○出来上がったコースをクラスの皆で挑戦する。

7. 振り返り

<本活動によって得た保育者の気づき>

- ・コース決めは意見がぶつかり時間がかかると思っていたが、お互いに聞く姿勢を持ちながらスムーズに話し合いが進んでいた。
- ・自分たちで考えた事で保育者の声掛けをほとんど行わずに子どもたちだけでコースを完成させることが出来ていた。
- ・感想を聞いた際に「楽しかった」以外に感謝の気持ちがきかれた事に感動した。
- ・主体的に参加する事で相手の動きに気付く姿が多くみられ、相手の事を思いやる気持ちが育ったと感じた。
- ・巧技台の種類を充実させ環境を整えていく事で子どもたちの考えを実現させ、話し合いをより深い物にしていける実践となった。